

市町村名	伊江村								
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】									
事業番号・事業名	1－①	伊江村ハブ対策事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－2－(6)－ア					
				地域特性に応じた生活基盤の整備					
担当部課名	建設課	事業実施 （予定）年度	平成27～32年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－12				
事業内容	本村に生息するハブによる咬傷被害から、村民及び観光客を守るため、生息地となっている観光地や海岸沿の清掃を行いハブが住処を作りにくい環境を整備する。また、捕獲器を設置しハブの捕獲駆除に取り組む。								
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）								
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）								
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度		
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	5,022	5,000	5,600				
		(b) 予算現額	2,980	4,330	4,320				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,042	▲ 670	▲ 1,280				
		(d) 繰越額	－	－	－				
		A. 計 (b+d)	2,980	4,330	4,320				
	B. 執行済額		2,980	4,330	4,320				
	うち交付金充当額		2,384	3,464	3,456				
	次年度繰越額		－	－	－				
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%				
	予算の状況の説明		予算の範囲内で適正な執行を行った。増減額の▲1,280千円については入札残によるものである。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況						
				27年度	28年度	29年度	30年度		
	ハブ生息地の清掃を行う	目 標	（ 生息地清掃 ）	（ 生息地清掃 ）	（ 生息地清掃 ）	（ ）			
		実 績	清掃完了	清掃完了	清掃完了				
	捕獲器を設置する	目 標	（ 捕獲器設置 ）	（ 捕獲器設置 ）	（ 捕獲器設置 ）	（ ）			
		実 績	設置完了	設置完了	設置完了				
	達成 状況 説明	・ハブ生息地の清掃を行うことにより、観光地の安全対策に繋がった。 ・捕獲器の設置及び巡回を行ったが、今年度事業においてハブの捕獲をすることができなかった。							
	成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値 （ 年度）
		ハブ咬症による被害件数を0件とする。	目 標	（ ）	（ 0件 ）	（ 0件 ）	（ 0件 ）	（ ）	
			実 績		0件	0件	1件		
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績							
進捗 状況 説明		・27、28年度においてはハブの咬症被害件数0件であったが、29年度については事業実施期間中にハブによる咬症被害が1件発生した。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ハブの咬症による被害件数は、27～28年度にかけて0件を達成しているが、29年度においてハブによる咬症被害が1件発生し成果目標を達成することができなかった。要因として、目撃情報が無く捕獲器設置箇所外での咬症被害であり当初目標を達成することができなかった。 ・捕獲についても、ハブの捕獲が0匹であるため捕獲器設置箇所の検討をする必要がある。	・ハブの生息地の清掃や捕獲以外に広報誌によるハブの咬症注意や村民へ目撃情報の募集、ハブ注意看板の設置により村民及び観光客への注意を促しハブの咬症被害を未然に防ぐ。 ・受託者との協議のうえ捕獲器の設置を主に行っているが、村民の目撃情報や各区長との連携を図り捕獲器の設置を行うことにより捕獲確率の向上を図る。
今後の取り組み方針		
・村内広報誌にてハブの注意喚起や目撃情報の募集、情報をもとに清掃や捕獲器の設置、ハブ注意看板の設置、職員による見回りの強化を行うことにより村民及び観光客等へのハブ被害を防ぎ安全・安心な環境整備を図る。 ・受託者との協議や村民の目撃情報や各区長との連携を図りハブ捕獲器の設置箇所の検討を行う。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>4,320</td><td>4,320</td><td>3,456</td><td>864</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 4,320千円 委託料 4,320千円 島幸建設株式会社 （清掃・捕獲業務） 4,320千円 伊江村ハブ対策事業 （清掃・捕獲）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,320	4,320	3,456	864	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,320	4,320	3,456	864	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○選定方法として村の格付土木B（造園工）を抽出し入札を執行していることから妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、設計書をもとに予定価格を設定し執行していることから妥当であると考え。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○業務後の検査において、書面及び現場確認検査を実施し、適正に事業を執行していると判断されたことから、事業目的に即した費目及び使途であったと考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊江村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2－①	明るい村づくり事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ				
				観光客の受入体制の整備				
担当部課名	建設課	事業実施 （予定）年度	平成27～29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－(1)			
事業内容	集落内の防犯灯をCO2排出の少ないLED照明灯に取替え、更に新規設置し夜間における、安心・安全な地域の環境整備を推進することにより、村民及び観光客等の防犯抑止効果として更には地球温暖化対策にも寄与する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	9,000	16,000	13,000			
		(b) 予算現額	7,560	15,336	13,500			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,440	▲ 664	500			
		(d) 繰越額	－	－	－			
		A. 計 (b+d)	7,560	15,336	13,500			
	B. 執行済額		7560	15,336	13,500			
	うち交付金充当額		6048	12,268	10,800			
	次年度繰越額		－	－	－			
	執行率（％）(B/A)		100%	100%	100%			
予算の状況の説明		当初予算額は13,000(千円)(交付対象事業費)であった、,500(千円)については工事費の増額によるものである。 事業内容は計画通り執行した。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	既存街灯のLED街灯への転換を150基実施する	目 標	(150基実施)	()	()	()		
		実 績	150基実施完了					
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
達成状況説明	・平成29年度計画のLED照明灯150基を転換設置した。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値 （ 年度）
	3lx以上の照度確保	目 標	()	(3lx以上)	(3lx以上)	(3lx以上)	()	
		実 績		3lx以上	最低:5.1lx 最高:15.5lx 平均:9.81lx	最低:7.8lx 最高:16.2lx 平均:11.4lx		
	進捗状況説明	・LED照明灯150基の転換設置を完了したことで、設置した場所が3lx以上の照度を確保するができ、地域住民より環境改善に満足しているとの声上がるなど、安心・安全な地域の環境整備が出来た。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・早期にLED照明への転換を行う必要性のある場所を選定し、実施することにより、通学路や住宅密集地、見通しの悪い道路等の照度を高めることが出来たが、今後も継続して、各地域の変化に対応しながら設置場所等を検討し、整備を実施する必要がある。	・今後も継続して各地域の環境変化や実情の検証を行い、整備が必要となる箇所の把握に努める。
今後の取り組み方針		
・事業自体は、平成29年度で終了するが、地域住民からヒアリングを実施することで、地域の実情を把握し検証することで、継続して「安心・安全な地域」の環境整備を実施し、明るい村づくりを展開していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
13,500	13,500	10,800	2,700	0

伊江村
13,500千円

工事請負費
13,500千円

伊江電気工事社
13,500千円

伊江村防犯灯整備工事

資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負業者は、指名競争入札で実績等を勘案し選定しており妥当であったと考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、設計書及び見積書をもとに予定価格を設定し執行しており妥当であると考えられる。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○工事後の検査において、書面及び現場確認検査を実施し、適正に事業執行していると判断されたことから、事業目的に即した費目及び使途であったと考えられる。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3－①	墓地整備基本計画策定事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－1－(6)－ア		
				地域特性に応じた生活基盤の整備				
担当部課名	建設課	事業実施 (予定)年度	平成29年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－12		
事業内容	本村に点在する墓地の現状を調査し、村民へアンケート調査等を行うことで村民ニーズを把握するとともに、墓地を集約化することで散在化の抑制、土地利用対策及び景観への配慮を目的とした総合的な墓地対策の指針となる墓地基本計画を策定する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度（ 33年度）							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	6,000					
		(b) 予算現額	7,500					
		(c) 増減額 (b-a)	1,500					
		(d) 繰越額	－					
		A. 計 (b+d)	7,500					
	B. 執行済額		7,290					
	うち交付金充当額		5,832					
	次年度繰越額		－					
	執行率（％）(B/A)		97.2%					
予算の状況の説明		6月補正で1,500千円増額し予算の範囲内で適正な執行を行った。増額の要因としては、墓地の実態調査（点在する墓地）の規模が大きく調査項目に係る人数の増や人件費改正によるものである。 不用額の210千円については、委託の入札残によるものである。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	墓地整備基本計画の策定		目 標	（ 計画策定 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
			実 績	計画策定				
達成状況説明	・本村に点在する墓地の実態調査及び墓地形態、管理状況調査を実施し、村民へアンケート調査を実施し、村民ニーズを集計し各区長へ説明会を行った。アンケート調査や説明会においてあがった課題や今後の方向性をとりまとめ墓地整備基本計画を策定した。 ・当初計画では許可区域の選定までを予定していたが、慎重な判断が見込まれることから発注前に仕様書から外している。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	29年度	30年度	31年度	目標値 （33年度）
	墓地整備基本計画の策定		目 標	（ ）	（計画策定完了）	（ ）	（ ）	（ ）
			実 績		計画策定完了			
	【H33成果目標】 平成33年度までに村営墓地の地域選定を実施し、墓地の集約化を目指して指定した墓地での墓地契約8件/年以上を目指す。		目 標					8件以上
	進捗状況説明	・本計画書において、伊江村における基本的な墓地の情報収集及び村民ニーズの確認と今後の課題等が把握でき計画書に反映することができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・村民へのアンケート調査を実施したところ墓地に対する関心が高く多くの意見を頂いた。その中でも、墓地埋葬法や墓地の建設や改装にあたり行政へ届出が必要なことを知らない世帯が多く今後も墓地の需要があることを確認した。 ・委員会等を設置し許可区域の選定や新たな墓地団地用地の選定を行う必要があると考える。	・墓地埋葬法や墓地に関する届出等の周知を行うことが必要であるため、村ホームページや広報誌等に掲載する。 ・今後、本計画書を基に許可区域の選定や墓地団地用地の選定を盛り込んだ2次計画書の作成を進める必要がある。
今後の取り組み方針		
・村民へ墓地に関する情報を村ホームページや広報誌等を活用し周知する。 ・今後、本計画書を基に2次計画書の作成が必要であり、検討委員会等を設置し墓地経営許可に係る許可区域の選定を行う。また、現在の村営墓地団地については、村の東側に位置しており、村中央や西側に住んでいる村民の利用に支障があることから村営墓地団地の新たな用地（候補地）を選定することで墓地の散在化の抑制及び土地利用対策、景観に配慮した計画書の作成を検討する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>7,290</td><td>7,290</td><td>5,832</td><td>1,458</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 7,290千円 委託料 7,290千円 (株)アジア測量設計 7,290千円 墓地整備基本計画書作成					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,290	7,290	5,832	1,458	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,290	7,290	5,832	1,458	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札で選定しており妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、設計書をもとに予定価格を設定し執行していることから妥当であると考ええる。											
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○業務後の検査において、書面及び現場確認検査を実施し、適正に事業を執行していると判断されたことから、事業目的に即した費目及び使途であったと考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊江村						
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	伊江村自動車航送コスト負担軽減事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-ア			
				交通・生活コストの低減			
担当部課名	公営企業課	事業実施 (予定)年度	平成26～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-9		
事業内容	離島である本村は、沖縄本島との交通機関は船に頼らざるを得ず、経済的な不利性をもたらす割高な航路運賃は、移動の大きな障害となっている。このため、自動車航送コスト負担軽減について往復1台当たり1,230円に対して810円の支援を行うことで、定住条件を改善し、「住みよい村づくり」の振興を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	12,960	12,000	12,960	14,580	
		(b) 予算現額	12,922	13,702	14,220	14,215	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 38	1,702	1,260	▲ 365	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	12,922	13,702	14,220	14,215	
	B. 執行済額		12,922	13,702	14,074	14,143	
	うち交付金充当額		10,338	10,961	11,215	11,314	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	99.0%	99.5%	
予算の状況の説明		当初18,000台の車両航送の補助を予定していたが、3月補正で450台分の予算365千円を減額した。不用額72千円については、見込みと比較し実績が88台分減したことによる。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	車両航送に対する運転手1名分の運賃補助	目 標	(支援実施)	(支援実施)	(支援実施)	(支援実施)	
		実 績	支援実施	支援実施	支援実施	支援実施	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	・車両航送1台につき、運転手1名相当分として810円の割引を実施した。 ・平成26年、27年、28年、29年と4年連続で航送実績が伸び続けているが、当初計画していた18,000台に対して540台分の車両航送補助を達成することが出来なかった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	車両航送に対する補助台数 年間1. 8万台	目 標	(16,000台)	(16,000台)	(16,000台)	(18,000台)	()
		実 績		16,916台	17,308台	17,460台	
	【H30成果目標】 沖縄本島へ移動しやすい環境の構築が図られたか(80%以上)を含め、村民へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目 標					80%
	進捗状況説明	当初見込んだ目標台数を3%(540台)下回る実績となったが概ね計画どおり実施することが出来た。村内住民の交通手段である船舶について車両航送負担軽減を行って定期的な医療機関等への通院や教育関連の大会など気兼ねなく本島との行き来ができるようになり、村内住民の生活コスト負担軽減に繋がったと考える。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・気象条件等によるフェリー欠航回数は前年度と比較し減少していることから、補助対象となる住民の減少（対H28年度比67名減）が要因のひとつであると考察される。	・住民人口の減少は、定住環境整備にかかわる横断的な支援によって効果が発現されるものであり、個別の取り組みのみでは歯止めをかけられるものではないが、本事業による支援の必要性は不変である。
今後の取り組み方針		
・引き続き、平成34年度以降の事業継続も見据えた事業推進に取り組む。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>14,143</td><td>14,143</td><td>11,314</td><td>2,829</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	14,143	14,143	11,314	2,829	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
14,143	14,143	11,314	2,829	0										
伊江村 14,143千円 補助金 14,143千円 公営企業課 14,143千円 補助金 車両航送に対する補助														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は唯一の航路事業者を選定しており、妥当であったと考えている。 ○執行率が約99.5%となっており、補助対象者全ての事業を執行する事ができ、適正であった。 ○費目・使途については予定通りであり、実績報告・検査も実施した。目的に即し適正なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊江村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	5-①	伊江村アジアン野菜生産販売事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ウ				
担当部課名	農林水産課	事業実施 (予定)年度	平成27～29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	特産品開発やプロモーションなど マーケティング支援等の強化			
事業内容	村内で生産されたアジアン野菜を首都圏を中心とした外食や小売業態の販売連携先と物流・商流の体制を構築するため、平成28年度までの調査による栽培マニュアルの検証を引き続き行い、強化型パイプハウスで栽培した選定品目の肥培管理や試験出荷を行う。また、今後の生産・販売計画を策定し、受発注業務体制の構築、調理レシピや加工商品の開発などを行い、本事業の本格稼働と経営の安定化を目指す。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(30年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	14,000					
		(b) 予算現額	13,483					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 517					
		(d) 繰越額	—					
		A. 計 (b+d)	13,483					
	B. 執行済額		13,482					
	うち交付金充当額		10,786					
	次年度繰越額		0					
	執行率 (%) (B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		委託業務においては公募型プロポーザル方式で受託業者を選定し、予算の範囲内で事業提案内容通りに適正に執行した。 減額分については当初予算額と契約額の差額分を減額したものである。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	専門家による生産販売調査業務	目 標	(生産・販売計画の策定)	()	()	()	()	
		実 績	生産・販売計画を策定済					
	選定品目の栽培マニュアルに関する肥培管理法の検証及び農家への普及	目 標	(肥培管理の指導 栽培手法の確立)	()	()	()	()	
		実 績	肥培管理を指導済 栽培手法を確立済					
	販売先ごとの青果生産計画と試験出荷	目 標	(選定品目の試験出荷)	()	()	()	()	
		実 績	選定品目を試験出荷済					
	調理レシピ、加工商品の企画整理	目 標	(調理レシピの開発、加 工商品の試験製造)	()	()	()	()	
		実 績	調理レシピを開発済、加工 商品を試験製造済					
達成 状 況 説 明	・専門家による生産販売調査業務においては、農家毎に栽培計画や目標出荷日量などを設定して管理した。また、県内スーパーの総菜向け青果やスーパー棚売りの青果試験販売、加工用品の原材料供給を想定した出荷体制などを構築した。 ・農家に対して肥培管理の指導や試験出荷を通して、高温期の栽培手法の確立や栽培施設の条件確認、作物毎の病害虫対策を行うことができた。 ・昨年度に導入した強化型パイプハウスで試験栽培を行っている選定品目(青パパイヤ、ガパオ、ホーラパーなど)を、村民に広く紹介し関心を持ってもらおうと現地見学会を実施し、栽培を希望する農家を募った。 ・野菜が生産過剰になった場合などを考慮し、話題性やニーズのある加工商品の企画・整理や試験製造などを実施した。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (30年度)
	肥培管理を体系化した品目の生産計画を策定し、外食産業や市場向けの生産、販売計画の確立	目 標	()	(生産・販売 計画の確立)	()	()	()	()
		実 績		生産・販売計画の 確立済				
	冷蔵総菜や菓子類の試験品開発	目 標	()	(商品の開発)	()	()	()	()
		実 績		商品を開発済				
	新規事業実施会社の設立に向け、村内の事業所に業務移行を実施	目 標	()	(新規事業実施 会社の設立)	()	()	()	()
		実 績		新規事業実施会社の設 立・業務移行準備中				
	【H30成果目標】 アジアン野菜を活用した加工商品及び菓子類の開発(各1品)	目 標						各1品
進 捗 状 況 説 明	・これまでの肥培管理試験などを通して、委託農家が保有する圃場の地力や状態を勘案して、その畑にあった管理手法を整理し、栽培計画では毎日出荷できる環境を整備して優先品目から栽培作目を決めて目標出荷日量などを決めて管理した。 ・加工度を上げて収益性を得ることも検討し、冷凍野菜やパパイヤサラダ用のドレッシングの開発やパクチーケーキの試供品製造を実施した。 ・都内のタイ料理店にアジアン野菜を供給・調達する会社の村内への誘致が決まり、新規の会社を設立する目処が立ったが、設立予定地の建物の修繕に時間を要するため、修繕後に入居し、新会社を設立する予定である。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・試験栽培を行う農家に対し、肥培管理などの指導を行う一方で、今後の事業の在り方や出荷・生産体制の周知が不足していた。 ・加工食品の試供品の商品化を検討する必要がある。 ・都内でアジアン野菜の調達会社と交渉し、村で新たに会社を設立することになり、村で初の企業誘致となった。	・農家に対して、事業の取り組みや買い手（出口）の見える取り引き、今後の新規会社の設立などについて丁寧に説明するなど、出荷・生産体制の周知を図る必要がある。 ・商品化に向けて消費者モニター調査や、バイヤーへの商品提案等を行う必要がある。 ・誘致企業と本事業の連携した取り組みを実施することで、より一層の農業振興を図る必要がある。
今後の取り組み方針		
・新規会社の設立に伴い、本格的な取り引きが開始されるため、増産のために栽培を希望する農家を着実に増やす取り組みを行う。 ・消費者モニター調査等を踏まえて商品の改良を行い商品化を図る。 ・誘致企業に対して種苗調達をはじめ栽培指導、出荷管理、生産・販売管理、受発注管理などを行い、農家の増加や生産規模の拡大を図る。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>13,482</td><td>13,482</td><td>10,786</td><td>2,696</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 13,482千円 委託料 13,482千円 株式会社ビジネスアーチ 13,482千円 伊江村アジアン野菜生産販売事業					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	13,482	13,482	10,786	2,696	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
13,482	13,482	10,786	2,696	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は市場調査業務に精通した業者を公募型プロポーザルで募集し、適正な審査を行い、随意契約とした。 ○予算規模は事業内容に即した経費配分が行われ、適正な規模であるとする。 ○費用や使途については事業の目的達成の観点から必要なものに限定され適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊江村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	6-①	花卉振興対策事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ				
				農林水産業の振興				
担当部課名	農林水産課	事業実施 (予定)年度	平成29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)			
事業内容	集出荷施設の付帯設備として導入した花卉の冷蔵輸送車が整備から20年が経過し、老朽化も激しく、花卉振興を図る上で機能強化した冷蔵輸送車を整備する。また、本村で生産されるスプレーギクは県の拠点産地に認定され、スプレーギク専用の自動結束機付き重量選別機(包装機付)を導入し、労働力の負担軽減や農家の生産所得向上を図る。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(30年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	79,855					
		(b) 予算現額	62,380					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 17,475					
		(d) 繰越額	—					
		A. 計 (b+d)	62,380					
	B. 執行済額		62,380					
	うち交付金充当額		49,904					
	次年度繰越額		0					
	執行率 (%) (B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		当初予算額で79,855千円を計上し、入札を行った結果、補助額が62,380千円に確定したため17,475千円を減額した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	冷蔵輸送車2台導入	目 標	(2台)	()	()	()		
		実 績	2台					
	自動結束機付き重量選別機(包装機付)2台導入	目 標	(2台)	()	()	()		
		実 績	2台					
達成状況説明	冷蔵輸送車2台及び自動結束機付き重量選別機2台を導入した。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (30年度)
	冷蔵輸送車2台導入の完了	目 標	()	(導入完了)	()	()	()	
		実 績		導入完了				
	自動結束機付き重量選別機(包装機付)2台導入の完了	目 標	()	(導入完了)	()	()	()	
		実 績		導入完了				
	【H30成果目標】 大菊・小菊・スプレー菊の合計生産量の増加率:対前年度比5%以上	目 標					5%	
	進捗状況説明	冷蔵輸送車2台を導入し、花卉の鮮度を保持し、安心安全な輸送が可能となった。また、自動結束機付き重量選別機(包装機付)2台を導入し、労働力の負担軽減が図られ、良質な選別が可能となり出荷量が増加した。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・スプレーギクを含めた花卉全体の年間出荷量のさらなる増加を図る必要がある。	・機器の導入による作業時間の軽減分を利用して、栽培面積の拡大及び圃場管理の徹底に取り組む。
今後の取り組み方針		
・台風対策や圃場の管理を徹底するなど、スプレーギクを含めた村内の花卉全体の年間出荷量を5%以上の生産拡大に向け、農家と一体となって生産振興に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
77,976	62,380	49,904	12,476	15,596

伊江村
62,380千円

補助金
62,380千円

沖縄県花卉園芸農業
協同組合
62,380千円

いすゞ自動車九州(株)沖縄支社
【備品購入費】
53,784千円
(冷蔵輸送車2台)

株式会社くみき
【備品購入費】
24,192千円
(自動結束機付き重量選別機・包装機付2台)

花卉農協負担分(交付対象外経費)
15,596千円

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の沖縄県花卉園芸農業協同組合において車両や機器を一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○車両や機器については3社見積もりにより設計額を算出し、予算規模は適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である沖縄県花卉園芸農業協同組合は総事業費の2割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断して妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用や使途については目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	伊江村						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-①	優良繁殖雌牛導入事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア		
			おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備				
担当部課名	農林水産課	事業実施 (予定)年度	平成26～30年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	伊江村肉用牛繁殖農家経営の更なる向上の取組に基づき、県内・外の家畜セリ市場において優良繁殖素牛(メス)を購入導入した伊江村和牛改良組合員に対して導入支援を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	30,000	30,000	30,000	40,000	
		(b) 予算現額	30,000	30,000	30,000	40,000	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	30,000	30,000	30,000	40,000	
	B. 執行済額		30,000	30,000	30,000	39,686	
	うち交付金充当額		24,000	24,000	240,000	31,748	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	99.2%	
予算の状況の説明		当初予算にて40,000千円(100頭導入)を計上し、事業実績として39,686千円の(102頭導入)執行額となった。また、計画どおりの繁殖雌牛導入を図ったが、事業後期(H30.2月)に導入した雌牛の1頭に事故が生じ、補助対象外とした為、予算執行残が生じた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	優良繁殖雌牛の計画導入:100頭	目 標	(100頭導入)	(100頭導入)	(100頭導入)	(100頭導入)	
		実 績	106頭導入	103頭導入	100頭導入	102頭導入	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
	達成状況説明	・県内外各地から102頭の優良遺伝形質を保持する繁殖素牛が導入された。 ・当初事業計画(導入計画)頭数を2頭上回る結果となり、目標値を達成することができた。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (26年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	活動目標指数(年間100頭導入)の達成 (優良繁殖雌牛を100頭導入し、繁殖雌牛飼養頭数規模拡大及び優良遺伝素牛の増加が期待され、高市場価値の維持、促進を図る。)※H30年度目標値:100頭導入	目 標	(100頭導入)	(100頭導入)	(100頭導入)	(100頭導入)	()
		実 績		103頭導入	100頭導入	102頭導入	
	【H30成果目標】 導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合 115%以上	目 標					115%
	進捗状況説明	本村肉用牛の改良及び増頭を図るため、県内外の家畜市場において優良遺伝形質を持つ雌子牛購買に対し、補助金を交付し村内肉用牛ブランドの向上と優良種畜の増頭が図られた。今後において、導入牛から生産された優良子牛は、村内の家畜市場において県内外に取引されるとともに、優良遺伝形質を保持する系統雌牛群の産地形成に努めることにより、地域全体での肉用牛繁殖生産基盤の拡充が図られた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・市場購買後の長距離輸送や導入先における家畜疾病(ウイルス・細菌)が家畜への大きなストレスとなり、導入先到着後の元気消失、食欲不振、疾病発症等が数件発生している。	・購買後の家畜輸送体制の見直し並びに、導入先到着(受入)時の導入者(受益者)を主とした導入家畜のストレス軽減対策を図る。
今後の取り組み方針		
・引き続き、輸送前後の家畜栄養剤(ビタミン・ミネラル剤)の経口投与の実施や導入先受入時の初期飼養管理の再徹底を図り、導入後10日前後は他の牛群との接触を避け隔離飼いや施設消毒の徹底指導を行い、家畜疾病の原因となる輸送ストレスや管理牛舎施設内の細菌・ウイルスの防除強化に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>98,759</td><td>39,686</td><td>31,748</td><td>7,938</td><td>59,073</td></tr></table> 伊江村 39,686千円 補助金 39,686千円 和牛改良組合員 39,686千円 交付対象外経費、受益者負担 59,073千円 購買市場(県内外) 98,759千円 【素畜購入費】 優良繁殖雌牛導入 62件 102頭					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	98,759	39,686	31,748	7,938	59,073
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
98,759	39,686	31,748	7,938	59,073										
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業主体は、本事業の交付対象要件を満たす唯一の団体であり、選定は妥当だと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○畜産農家の高齢化による廃業及び離農が多くみられ、年々減少していく繁殖雌牛の維持並びに増頭の為に本事業を推進しており、事業実績及び成果目標指数の達成状況を含め、適正な予算規模であったと考えている。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○全国的な素牛数の減少により、素牛購買価格が高騰しており他の一括交付金事業と比較しても受益農家の負担率が高い。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、補助金交付要綱に基づき補助額の確定時において支出等に関する要綱により確認した結果、適正であった。											

市町村名	伊江村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	8－①	鮮魚輸送強化事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ				
				農林水産業の振興				
担当部課名	農林水産課	事業実施 (予定)年度	平成29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)			
事業内容	本村で水揚げされる鮮魚類を県内外へ輸送・出荷する為、空輸用コンテナ、海上輸送用コンテナ、輸送用活魚タンクコンテナを整備し漁業振興を図る。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(31年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	13,600					
		(b) 予算現額	9,600					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 4,000					
		(d) 繰越額	－					
		A. 計 (b+d)	9,600					
	B. 執行済額		9,600					
	うち交付金充当額		7,680					
	次年度繰越額		0					
	執行率 (%) (B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		当初予定していた輸送用活魚コンテナが製造中止になり、仕様を変更することとなったため、▲4,000千円を減額した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	空輸用コンテナ・海上輸送用コンテナ・輸送用活魚コンテナの購入	目 標	(各種コンテナ備品 購入)	()	()	()	()	
		実 績	各種コンテナ備品購入					
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
達成 状況 説明	・空輸用コンテナ10台については、これまでより県外出荷における鮮度保持の確保と輸送コストの削減が図られた。 ・海上輸送用コンテナについて、海上輸送時(フェリー輸送)に活用するため6台整備した。 ・輸送用活魚コンテナについては、活魚の輸送の為にポンプ機能を有したコンテナ2台を整備した。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (31年度)
	空輸用コンテナ・海上輸送用コンテナ・輸送用活魚コンテナの購入完了	目 標	()	(購入完了)	()	()	()	()
		実 績		購入完了				
	【H31成果目標】 県外への輸送コストの軽減マイナス10円/kg 255円/kg (参考) 平成28年度 265円/kg	目 標						255円/kg
	進 捗 状 況 説明	輸送時の海上から陸上へ、陸上輸送から県外出荷時の詰め替え作業等の時間的ロスが軽減された。 また、詰め替え作業等が時間的に軽減されたことにより、鮮度保持や輸送経費の削減が出来た。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・導入したコンテナを活用して、更なる鮮度保持や輸送経費の削減に取り組む必要がある。	・コンテナの活用効率（1回での搬入量等）を上げ、輸送コストの更なる軽減を図る。
今後の取り組み方針		
・仕入業者との調整を密にし、1回の輸送量を増やすなどコンテナの活用効率を上げ、輸送コストの軽減に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
12,104	9,600	7,680	1,920	2,504

伊江村
9,600千円

補助金
9,600千円

伊江漁業協同組合
9,600千円

ほか、漁協負担分(交付対象外経費)
2,504千円

沖縄日通エアカーゴサービス(株)
【備品購入費】
2,968千円

空輸用
コンテナ
10台

ホシザキ沖縄(株)
【備品購入費】
5,896千円

海上輸送用
コンテナ
6台

ヤンマー沖縄(株)
【備品購入費】
3,240千円

活魚輸送用
コンテナ
2台

資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○漁協所有の水産物荷さばき施設に精通している伊江漁協に補助金を支出し、事業実施主体とするのが妥当であったと考える。 ○不用額が事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○受益者である漁協は総事業の2割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○備品購入費については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	8－②	水産物荷さばき施設強化事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ				
				農林水産業の振興				
担当部課名	農林水産課	事業実施 (予定)年度	平成29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)			
事業内容	現在利用している荷捌き施設において、近年多く水揚げされるソデイカの水揚げ作業を効率的に行なうための機械の導入を行い漁業振興を図る。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(30年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	4,000					
		(b) 予算現額	8,000					
		(c) 増減額 (b-a)	4,000					
		(d) 繰越額	－					
		A. 計 (b+d)	8,000					
	B. 執行済額		7,560					
	うち交付金充当額		6,048					
	次年度繰越額		0					
	執行率 (%) (B/A)		94.5%					
予算の状況の説明		当初予定していたベルトコンベアーは、先端部分の可動を既存の機器で上下する予定であったが、人的負担や時間的なロスも考えられることから、上下可動を電力モーターに変更したことから増額が発生し9月補正で4,000千円増額した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	水揚げ用ベルトコンベアー一式の購入	目 標	(水揚げ用ベルトコンベアー一式の購入)	()	()	()	()	
		実 績	水揚げ用ベルトコンベアー一式の購入完了					
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
	達成状況説明	水揚げ用ベルトコンベアーの購入について、当初の目的を達成することができた。						
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度
水揚げ用ベルトコンベアー一式の購入完了		目 標	()	(購入完了)	()	()	()	
		実 績		購入完了				
【H30成果目標】 機械の導入後の水揚げ作業の時間を1隻あたり30分短縮する。		目 標					30分	
進捗状況説明		水揚げ用ベルトコンベアーを整備したことにより、漁船からベルトコンベアーをとおして、直接、出荷用コンテナへ積み込みが出来ることから、これまで以上に水揚げ作業の効率が向上した。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・水揚げベルトコンベアーの導入により水揚げ時の作業人数が4名から3名で行えるようになり作業効率が上がるなどスムーズな荷揚げ作業が可能となったが、更なる漁業振興の為に、様々な面で効率化を図る必要がある。	・水揚げ作業の更なる効率化を図る為には、計量機の電算化導入による時間的ロス改善が出来ないか検討する。
今後の取り組み方針		
・今後は、更なる水揚げ作業の効率化・スピーディー化の向上を図る上で、計量機の電算化導入を行い、鮮度保持にこだわった水揚げに取り組んでいく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>9,450</td><td>7,560</td><td>6,048</td><td>1,512</td><td>1,890</td></tr></table> 伊江村 7,560千円 補助金 7,560千円 伊江漁業協同組合 7,560千円 ホシザキ沖縄(株) 【備品購入費】 9,450千円 （ほか、漁協負担分（交付対象外経費）） （水揚げ用ベルトコンベアー）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	9,450	7,560	6,048	1,512	1,890
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
9,450	7,560	6,048	1,512	1,890										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○漁協所有の水産物荷さばき施設に精通している伊江漁協に補助金を支出し、事業実施主体とするのが妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額が事業費の5%以内であり適正な規模であった。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である漁協は総事業の2割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○備品購入費については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											

市町村名	伊江村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	9-①	村花・世界のゆり植栽推進業務	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ				
				観光客の受入体制の整備				
担当部課名	商工観光課	事業実施 （予定）年度	平成24～32年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)			
事業内容	本村は、「夕日とロマンのフラワーアイランド」をキャッチフレーズとしており、村花であるテッポウユリと世界の様々な品種のゆりの球根を購入し、日本一早いゆり祭りの開催など、花の島づくりを推進することで観光客の受入体制の整備を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,131	3,000	3,000	3,000	3,000	
		(b) 予算現額	2,996	2,980	2,938	2,972	2,874	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 135	▲ 20	▲ 62	▲ 28	▲ 126	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	2,996	2,980	2,938	2,972	2,874	
	B. 執行済額		2,996	2980	2938	2972	2,874	
	うち交付金充当額		2,396	2384	2350	2377	2,299	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	予算の状況の説明		当初の予定を7,600球下回る数量のゆり球根購入となったため、126千円減額となったが予定した事業内容は執行した。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	・テッポウユリ 球根50,000球	目 標	(ゆりの球根購入 70,000球)	(ゆりの球根購入 70,000球)	(ゆりの球根購入 50,000球)	(ゆりの球根購入 50,000球)		
		実 績	ゆりの球根購入 70,000球	ゆりの球根購入 70,000球	ゆりの球根購入 50,500球	ゆりの球根購入 22,400球		
	・世界のゆり 球根20,000球	目 標	()	()	(ゆりの球根購入 20,000球)	(ゆりの球根購入 20,000球)		
		実 績			ゆりの球根購入 20,000球	ゆりの球根購入 40,000球		
	達成状況説明	・テッポウユリの球根購入については、購入先の球根確保が難しく22,400球となった。 ・世界のゆりの球根については、来場者数目標を達成する為、前年度の90品種から100品種へ増やす事に伴い、世界のゆりの球根購入数を増やした。						
	成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）		基準値 （ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値 （ 年度）
		・第22回伊江島ゆり祭り来場者数31,000人 (H28年30,000人)	目 標	()	(33,000人)	(30,000人)	(31,000人)	()
			実 績		30,000人	30,000人	30,000人	
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
進捗状況説明		球根の更新を行ったことにより花の咲き具合もよく、来場者がもっとも多くなるゴールデンウィーク中に満開の花を咲かすことができた。世界のゆり100品種も色とりどりの花を咲かせ来場者に好評で花の島づくりを推進することが出来た。しかしながら、目標とした来場者数には届かなかったため本事業で導入した100品種のゆりについて、村内外へのピーアール方法を検討する必要がある。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・来場者数目標を達成するために今回世界のゆり90品種から100品種へ増やした。今後も、新たに植栽できる品種が無いか検討し、他の地域では見られないような品種を導入することで祭りの目玉として観光客の誘客に努める必要がある。	・期間中の咲き具合も良好で多くの来場者から好評を得たが、はしかの流行などにより目標には届かなかった。引き続き新たな目玉になるような品種を導入することで、県内外へアピールし観光客誘客の向上に努める。
今後の取り組み方針		
・今後、世界のゆりについて新たな目玉となるような品種を導入し、県内外へアピールすることにより観光客誘客の向上に努め、また一定サイズのテッポウユリの球根を導入することで会場全体のボリュームアップを図り来場者数目標の33,000人を達成できるよう努める。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>2,874</td><td>2,874</td><td>2,299</td><td>575</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 2,874千円 原材料費 2,874千円 新緑園 園芸センター 2,874千円 球根購入：テッポウユリ22,400球 ：世界のゆり 40,000球					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,874	2,874	2,299	575	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,874	2,874	2,299	575	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○選定した業者は、62,400球もの多量の良質な球根を短期間に調達できる唯一の業者であり、選定は妥当であると考えている。 ○見積もりを徴収し決定したので、予算規模、事業内容とも適正である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、金額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊江村						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9-②	観光地クリーン事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ			
				観光客の受入体制の整備			
担当部課名	商工観光課	事業実施 (予定)年度	平成27～32年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)		
事業内容	観光地の環境美化及び保全をし、観光地の景観形成と観光客の受け入れ態勢を強化する						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	18,000	18,000	21,000		
		(b) 予算現額	20,147	21,466	19,846		
		(c) 増減額 (b-a)	2,147	3,466	▲ 1,154		
		(d) 繰越額	—	—	—		
		A. 計 (b+d)	20,147	21,466	19,846		
	B. 執行済額		20,147	21,466	19,846		
	うち交付金充当額		16,117	17,173	15,877		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
	予算の状況の説明		当初は予定の16名を雇用していたが年度途中で2名の退職(その後中途採用1名)があり、予算の減額となったが、事業の目的に沿って、適正な執行に努めることができた。				
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	観光地環境美化保全作業員16名	目 標	(作業員14名)	(作業員14名)	(作業員16名)	()	
		実 績	作業員18名	作業員16名	作業員17名		
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
	達成 状況 説明	年度途中で2名の退職及び1名の中途採用などにより、延べ人数は17名となったが、観光地の環境美化及び保全を行い観光地の景観形成と観光客の受け入れ体制を強化した。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	伊江村美ら島アンケートを実施 H29美ら島満足度目標(80%)	目 標	()	(70%)	(70%)	(80%)	()
		実 績		70%	70%	70%	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗 状況 説明	・観光客の満足度について、調査を実施した結果、満足したとの回答が70%しか得られず目標値の80%に届かなかった。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・敷地が広い観光地に時間がかかり環境美化及び保全に偏りが見られた月があった。	・夏期など雑草等の成長が早い時期に作業員のグループ分けを行い、作業場所を分担し、観光地の環境美化及び保全に偏りがないよう作業を行う。また、偏りが生じないよう、平成30年度に繁忙時の公園観光地芝等管理委託を検討する。
今後の取り組み方針		
・作業場所の検討及び適切な人員配置などを行い観光地の環境美化に取り組むとともに、繁忙期の公園等観光地芝等管理委託を検討する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>19,846</td><td>19,846</td><td>15,877</td><td>3,969</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 19,846千円 賃金 19,846千円 村雇用作業人 19,846千円 （観光地清掃作業人：17人）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	19,846	19,846	15,877	3,969	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
19,846	19,846	15,877	3,969	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○伊江村賃金職員雇用管理規則に基づき雇用している作業人であり、妥当であったと考えている。 ○年度途中での退職などもあり、予算規模は下回ったが、事業目的に沿っており、適正である。 ○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		伊江村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】									
事業番号・事業名	9-③	観光客誘客環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ			
						観光客の受入体制の整備			
担当部課名	商工観光課		事業実施 (予定)年度	平成26～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－(1)		
事業内容									
伊江港周辺や青少年旅行村、リリーフィールド公園、ミースィ公園、乗馬体験交流施設など、村内観光施設の機能拡充を図るための施設整備を行い、観光客の受け入れ態勢を強化する。									
効果発現年度									
☐ 当年度 ☒ 後年度(31年度)									
実施方法									
☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度		
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	135,400	109,047	61,700	94,450			
		(b) 予算現額	145,070	122,105	201,937	96,071			
		(c) 増減額 (b-a)	9,670	13,058	140,237	1,621			
		(d) 繰越額	－	－	－	－			
		A. 計 (b+d)	145,070	122,105	201,937	96,071			
	B. 執行済額		145,070	122,105	201,937	96,071			
	うち交付金充当額		114,786	97,683	159,859	76,857			
	次年度繰越額		0	0	0	0			
	執行率 (％) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初の予算額より1,621千円の増額が発生しているが、主な要因として、ミースィ公園整備工事にて時計台の追加工事を行った事が主な要因である。							
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度		
	リリーフィールド公園整備事業(実施設計)	目 標	()	(実施設計)					
		実 績		実施設計完了					
	ミースィ公園整備(工事)	目 標	(実施設計及び整備)	(整備工事)					
		実 績	実施設計 整備完了	整備完了					
	乗馬体験交流施設整備(工事)	目 標	(実施設計)	(整備工事)					
		実 績	実施設計完了	整備完了					
	伊江港周辺施設プランター整備(備品購入)	目 標	()	(備品購入)					
		実 績		備品購入					
達成状況説明	・リリーフィールド公園整備事業については、次年度以降に整備を行う中央展望台、野外トイレ、駐車場、浸透地、遊歩道の設計を行った。 ・ミースィ公園整備工事については、幼児用遊具1基、四阿1ヵ所、時計塔設置1基、大型バス駐車場3台分等の整備を行った。 ・乗馬体験交流施設整備工事は、牧柵416m、門扉7ヵ所を整備し機能強化を図った。 ・伊江港周辺施設プランター整備は、プランターを30個購入し伊江港周辺及び本部港ターミナル周辺に設置した。								
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)				基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (31年度)
	リリーフィールド公園整備実施設計完了	目 標	()	()	(実施設計 完了)	()	()		
		実 績			実施設計完了				
	ミースィ公園整備工事完了	目 標	()	(実施設計 及び整備)	(整備工事 完了)	()	()		
		実 績		実施設計完了 及び整備完了	整備工事完了				
	乗馬体験交流施設整備工事完了	目 標	()	(実施設計)	(整備工事 完了)	()	()		
		実 績		実施設計完了	整備工事完了				
	伊江港周辺施設プランター整備備品購入完了	目 標	()	()	(備品購入 完了)	()	()		
		実 績			備品購入完了				
	【H31成果目標】 駐車場のアスファルト舗装、トイレの新設によりリリーフィールド公園の利便性が向上したか(80%以上)を含め、公園来場者へのアンケートにより本事業のあり方について検証する。			目 標					80%
進捗状況説明	下記に記載のとおり事業を実施し、村内の観光施設を整備したことによって、伊江村に訪れる一般観光客又は修学旅行といった団体客等が安全に快適に観光してもらう受入体制を強化することができた。 ・リリーフィールド公園の中央展望台、野外トイレ、駐車場、浸透地、遊歩道の設計を行い、次年度以降に整備を行う。 ・ミースィ公園の幼児用遊具1基、四阿1ヵ所、時計塔設置1基、大型バス駐車場3台分等の整備を行い観光客や村民の利用頻度も高まっている。 ・乗馬体験交流施設の牧柵や門扉の整備を行い、予期せぬ馬の逃亡等が防げ安心安全に利用していただけるよう機能強化を行った。 ・伊江港及び本部港周辺に観葉植物等を設置し、島の玄関口の景観形成を図ることが出来た。								

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・リリーフィールド公園整備事業（実施設計）の完了に伴い、次年度以降に整備する箇所の優先順位を決める必要がある。	・リリーフィールド公園の整備にあたっては、地域住民等からの意見を参考にして、整備箇所の優先順位を検討する。
	・ミースィ公園整備（工事）の完了により、観光客の受入体制が整ったことから、今後の利活用に向けた誘客事業に力を入れる必要がある。	・ミースィ公園は、地域住民等からの意見を参考にして、観光客の誘客が期待できるよう観光メニューを作成する。
	・乗馬体験交流施設の整備が整ったことから、今後は誘客に向けて取り組む必要がある。	・乗馬体験交流施設の施設整備が整ったことから、乗馬プランや単価設定を検討し、観光客誘客に繋げる。
	・プランター設置に伴い今後は、景観緑化に重点を置き取り組む必要がある。	・プランター設置に伴い景観緑化に必要な苗作りや四季折々の植栽計画を作成する。
今後の取り組み方針		
・リリーフィールド公園の整備は、地域住民など関係者の意見を踏まえて決定した優先順位に基づいて、速やかに整備着手する。		
・ミースィ公園については、地域住民など関係者の意見を踏まえて観光メニューを作成し、観光誘客に取り組む。		
・乗馬体験交流施設においては、乗馬プラン等の観光メニューを開発し、観光誘客に取り組む。		
・植栽計画を策定し、計画に基づいた景観緑化に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
		96,071	96,071	76,857	19,214	0
伊江村 96,071千円	委託料 23,103千円	(株)ビルエンジニアリング 1,620千円	(乗馬体験交流施設整備工事現場技術業務)			
		(一財)建設物価調査会沖縄支部 315千円	(ミースィ公園整備工事建設資材単価特別調査委託業務)			
		(株)アジア技研 1,620千円	(ミースィ公園整備工事現場技術業務)			
		(有)大友設計 5,616千円	(リリーフィールド公園施設整備工事実施設計業務(建築))			
		(合)泉エンジニアリング 13,932千円	(リリーフィールド公園施設整備工事実施設計業務(土木))			
	工事請負費 71,402千円	(有)村元建設 41,980千円	(乗馬体験交流施設整備工事)			
		(有)大城建設 29,422千円	(第2期ミースィ公園整備工事)			
	備品購入費 1,566千円	(有)伸光堂 1,566千円	(伊江港周辺プランター整備)			
	資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目		評価に関する説明	
		○	支出先の選定方法は妥当か。		○業者選定は一般競争入札より選定しており、妥当であったと考えている。	
○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○入札残による不用額はあったが、事業年度に見合った予算規模で適正であったと考える。		
—		受益者との負担関係は妥当であるか。		○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。		
○		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

市町村名	伊江村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	9-④	伊江村平和学習ビデオ作成事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ				
				観光客の受入体制の整備				
担当部課名	商工観光課	事業実施 (予定)年度	平成29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－(1)			
事業内容	伊江村には毎年多くの県内外から修学旅行生が訪れる為、伊江村独自の平和学習ビデオ「伊江島戦記」を作成し、より伊江村を理解してもらい伊江村修学旅行の差別化を図り、伊江村観光振興の向上を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	5,000					
		(b) 予算現額	5,000					
		(c) 増減額 (b-a)	0					
		(d) 繰越額	－					
		A. 計 (b+d)	5,000					
	B. 執行済額		4,987					
	うち交付金充当額		3,989					
	次年度繰越額		0					
	執行率 (%) (B/A)		99.7%					
予算の状況の説明		予算の範囲内で適正な執行を行った。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	伊江村平和学習ビデオ作成	目 標	(ビデオ作成)	()	()	()		
		実 績	作成完了					
		目 標	()					
		実 績						
	達成 状況 説明	伊江村平和学習ビデオを作成する為、村内に住む戦争体験者及び沖縄戦についての知識を有する有識者、修学旅行受入団体、教育委員会等で検討委員会を立ち上げ、検討委員会を4回行った。						
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	29年度	28年度	29年度
・伊江村平和学習ビデオ完成		目 標	()	ビデオ完成	()	()	()	
		実 績		ビデオ完成				
・修学旅行生受入団体及び修学旅行生へのアンケートによる調査 H29伊江村平和学習満足度(70%)		目 標	()	(満足度70%)	()	()	()	
		実 績		満足度70%				
進捗 状況 説明		作成後、修学旅行受入団体及び修学旅行受入民家、修学旅行生と出演者の方を対象に試写会を行った。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・修学旅行生等の県内外の団体へ平和学習ビデオを見せる為の機会の確保が課題となっている。	・旅行者や修学旅行で来村する学校に宣伝を行い、修学旅行プログラム内での上映会を行うなど、様々な場面での活用方法を検討していく必要がある。
今後の取り組み方針		
・平和学習ビデオの活用方法を伊江村観光団体を通して、旅行者や修学旅行に来る学校に宣伝を行い、修学旅行のプログラムの中で伊江村平和学習の時間を設けてもらうよう調整を行っていく他、村内小中学校の平和学習の教材として活用を提案し、修学旅行生及び村内の児童・生徒に見てもらうことで今後の伊江村の平和学習に興味をもってもらえるよう取り組みたい。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>4,987</td><td>4,987</td><td>3,989</td><td>998</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 4,987千円 委託料 4,987千円 株式会社MALUKIN 4,987千円 伊江村平和学習ビデオ作成業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,987	4,987	3,989	998	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,987	4,987	3,989	998	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者の選定は、専門知識を有する業務であることから、プロポーサル方式で選定しており、妥当だったと考えられる。 ○予算規模は内容に即した諸経費や人件費等が設定され、適正な規模であると考ええる。 ○費用や使途については事業の目的達成の観点から必要なものに限定され適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊江村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	9-⑤	伊江村観光振興基本計画策定事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ				
				観光客の受入体制の整備				
担当部課名	商工観光課	事業実施 （予定）年度	平成29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－(1)			
事業内容	本村の総合的な観光振興を中長期的に推進していくために基本計画を策定する。また、伊江村観光推進協議会において、村観光の現状と課題の分析、民泊事業、観光資源と特産物や農産物を含めた地域資源の掘り起こし、スポーツコンベンションやインバウンド対応など、地域の魅力を最大限に活かした観光戦略を多角的に構築する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度（ 33年度）							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	10,000					
		(b) 予算現額	10,000					
		(c) 増減額 (b-a)	0					
		(d) 繰越額	－					
		A. 計 (b+d)	10,000					
	B. 執行済額		9,990					
	うち交付金充当額		7,992					
	次年度繰越額		0					
	執行率（％）(B/A)		99.9%					
	予算の状況の説明		予算の範囲内で適正な執行を行った。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	観光振興計画の策定（課題の整理、基本方針・基本施策の決定など）	目 標	（ 観光振興計画の策定 ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績	策定完了					
		目 標	（ ）					
		実 績						
達成状況説明	伊江村観光振興計画策定による本村の現状、課題を把握し中長期的な基本計画を策定した。伊江村観光振興推進協議会において、本村観光の現状と課題を分析、民泊事業、観光資源と特産品等の地域資源の掘り起こし、スポーツコンベンションやインバウンド対応など地域の魅力を最大限に活かした観光振興計画の策定を行った。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	29年度	30年度	31年度	目標値 （33年度）
	・本村の現状、課題の把握	目 標	（ ）	（ 現状・課題の把握 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		現状・課題の把握				
	・今後5年間の観光振興に向けた基本施策の決定	目 標	（ ）	（ 基本施策の決定 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		基本施策の決定				
	【H33成果目標】 入域観光客数 158,000人/年 （参考） H27年度 136,000人/年	目 標					158,000人	
	進捗状況説明	伊江村観光振興推進協議会等において、本村の現状及び課題の把握を行い、今後5年間の観光振興に向けた基本施策を決定し、平成37年度には18万人の入域観光客数（H29約13万人）を目標としており、夏・冬場の旅行者が少ない時期に新たなイベントの開催や観光メニューの策定、スポーツ合宿等の誘客を図る。 また、目標の共有を目的とし基本計画本篇の概要版を村民へ配布した。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本村を訪れる方法は、通常は日に4便のフェリーのみであり、悪天候時には欠航となることも多く、旅行者の大きなハードルとなっている。今後は、伊江島航空を活用した本島や県外からの飛行機によるアクセスの整備やフェリー運行の回数の増便等を検討し観光誘客増を図る必要がある。	・各種関係者との連携・調整等を進めながら、解決するため国・県等の意見交換も行いながら改善対策を検討する。
今後の取り組み方針		
・今後は策定した基本計画に沿って夏・冬場のイベント開催等に取り組むとともに、各種関係者との連携・調整を進めながら、解決するため国・県等と意見交換を行い、継続的な改善を図りつつ観光誘客に取り組む。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>9,990</td><td>9,990</td><td>7,992</td><td>1,998</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 9,990千円 委託料 9,990千円 パシフィックコンサルタンツ株式会社 沖縄支社 9,990千円 伊江村観光振興基本計画策定業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	9,990	9,990	7,992	1,998	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
9,990	9,990	7,992	1,998	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者の選定は、専門知識を有する業務であることから、プロポーサル方式で選定しており、妥当だったと考えられる。 ○予算規模は内容に即した事業内容で実施され、適正であると考えている。 ○費用や使途については事業の目的達成の観点から必要なものに限定され適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊江村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	9-⑥	アジアユース人材育成・ネットワーク形成事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ			
					観光客の受入体制の整備			
担当部課名	商工観光課	事業実施 （予定）年度	平成29～31年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－(1)		
事業内容	アジア諸国と3市村（伊江村・南城市・渡嘉敷村）の高校生が豊かな自然や歴史、文化などの地域資源に恵まれた環境の沖縄で共に生活しながら地域の課題に取り組み、体験交流を深める中で、国や文化を超えた友情を育み、多種多様な文化や社会、考え方があることを直に学ぶ機会を設けることで、国際的な広い視野をもたせる。							
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度（ 年度）							
実施方法	□ 直接実施 □ 委託 ■ 補助 □ 負担 □ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	10,000					
		(b) 予算現額	10,000					
		(c) 増減額 (b-a)	0					
		(d) 繰越額	－					
		A. 計 (b+d)	10,000					
	B. 執行済額		9,775					
	うち交付金充当額		7,819					
	次年度繰越額		0					
	執行率（％）(B/A)		97.8%					
	予算の状況の説明		当初予定していた事業内容は全て実施しており活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であった。ミャンマーからの参加予定者が、国の政策により、渡航不可となってしまったため、不用額が225,000円生じた。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
			29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度		
	研修プログラムの実施(約3週間)	目 標	(研修実施)	()	()	()		
		実 績	研修実施					
達成状況説明	・アジア諸国より22名、国内より24名、計46名の高校生が参加し、8月5日から19日までの3週間の日程で本プログラムを実施した。 ・プログラムの様子は、テレビ局(QAB)でも紹介され、村民をはじめ広く県民にも周知できた。また、村内での研修には中学生6名加わり次年度への全日程プログラムへの参加に意欲を持つことが出来た。 ・業務完了報告書(100部)を作成し、国・県・3市村の関係機関や、県内参加者と参加者が属している高等学校等に配布し、生徒のプログラム参加の際の活動内容を報告した。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）		基準値 （ 年度）	29年度	30年度	31年度	目標値 （30年度）	
	国際感覚豊かな人材育成：50名	目 標	()	(50名)	()	()	()	
		実 績		46名				
	県内参加者：12名(うち伊江村4名)	目 標	()	(12名(うち伊江村4名))	()	()	()	
		実 績		県内22名(うち伊江村3名)				
	県外参加者：12名	目 標	()	(12名)	()	()	()	
		実 績		2名				
	アジアから参加者：26名	目 標	()	(26名)	()	()	()	
		実 績		22名				
	【H30成果目標】 生徒の国際的な視野がより広まったと感じたか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより本事業のあり方について検証する。		目 標					80%
	進捗状況説明	・県内参加者については、3市村より22名（伊江村3名、南城市19名）の参加となった。 ・県外参加者を12招聘する予定であったが、実行委員会で協議の結果、3市村の参加学生を増やすこととなり、3市村の姉妹都市等に絞って学生を招聘することとなった。その結果、宮崎県高千穂町から2名の参加となった。 ・アジアからの参加者については、26名を招聘する予定であったが、実行委員会で協議の結果、国内参加者と同数の24名（12ヶ国から各2名：カンボジア王国、中華人民共和国、インド、インドネシア共和国、大韓民国、ミャンマー、ラオス人民民主共和国、フィリピン共和国、シンガポール共和国、タイ王国、ベトナム社会主義共和国、香港より2名ずつ）を招聘することとした。ミャンマーにおいて政府の方針により未成年者だけでの渡航許可が下りない等不測の事態がおき、2名減の22名の参加となった。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・海外参加者については、文化、風習、宗教、生活習慣等が異なるため、本国滞在中の心のサポートを充実させる必要がある。 ・海外参加者の親の不安を取り除くため、子どもが安全・安心に過ごしていることを伝える必要がある。 ・海外参加者のビザ取得の遅れなどがあり、参加が危ぶまれるケースがある。 ・過年のプログラム参加者との交流が不足している。	・安心・安全なプログラムを考慮し、緊急時の対応、連絡体制、休息時間の設定、宿泊施設等の環境改善などに充分配慮する。看護師やチューター（大学生等）を配置し、参加者のサポートを行っているが、心のサポートを強化する必要がある。 ・研修風景や生活状況などの写真をInstagramなどのSNSへこまめにアップし、子ども達が安全・安心に過ごしていることを伝える必要がある。 ・ビザ発給手続き等の早期化を図る必要がある。 ・過去の参加者と今年度参加者との交流の機会を設ける必要がある。
今後の取り組み方針		
・安全・安心なプログラムを考慮し、緊急時の対応、連絡体制、ドクターヘリの要請等の事前確認やマニュアルを作成する。看護師の24時間帯同を義務付け、暑さ対策、休息時間の設定、宿泊施設等の環境改善などに十分に配慮するとともに参加者のサポートを強化するため、チューターの人数を増員し、スタッフやOB・OG等も含めた全体的なサポートを行える体制を構築する。 ・研修風景を記録する係りを設け、SNS等で写真をこまめにアップし、情報発信の強化を図る。 ・ビザ発給の遅れなどに対応できるよう、早めの手続き開始や事務の効率化などに取り組む。 ・2017年にアジアユース人材・ネットワーク形成事業プログラムに参加したOB・OGの講義や交流の時間を設けることによりネットワークの拡大及び継続に努める。（国内参加者のみ実施する事前研修の際にもOB・OGとの交流を計画する。）		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>9,775</td><td>9,775</td><td>7,819</td><td>1,956</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 9,775千円 補助金 9,775千円 アジアユース人材育成・ネットワーク形成事業実行委員会 9,775千円 事務費 305千円 委託料 NPOLレキオウイングス、(株)沖縄ツーリスト(コンソーシアム) 9,470千円 共済費、賃金、需用費、役務費 アジアユース人材育成・ネットワーク形成事業実行委員会補助金					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	9,775	9,775	7,819	1,956	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
9,775	9,775	7,819	1,956	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業務委託先については、公募型プロポーザル方式により選定しており、妥当であると認識している。 ○参加キャンセルにより225千円の不用額が生じたが、当初計画していた事業内容は全て実施しており、適正な規模であるとする。 ○業務完了後の完了検査も合格しており、適正であったと認識している。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊江村						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10-①	確かな学力を育む学習支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－5－(2)－ア			
				教育機会の拡充			
担当部課名	伊江村教育委員会教育行政課	事業実施 (予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－3－(1)		
事業内容	小中学校への免許外教科担当者の解消と専科教諭の配置、児童生徒1人1人に「確かな学力」を身に付けさせるための学習支援員の配置、更には発達障がいなど様々な障がいがある児童生徒に対し特別支援教育支援員などの配置を行い、自立し生きていく為の土台づくりを行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	14,857	19,440	19,440	20,304	20,304
		(b) 予算現額	13,345	17,351	20,536	19,590	16,143
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,512	▲ 2,089	1,096	▲ 714	▲ 4,161
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計 (b+d)	13,345	17,351	20,536	19,590	16,143
	B. 執行済額		13,345	17,351	20,536	19,590	16,143
	うち交付金充当額		10,300	13,881	16,429	15,672	12,914
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	予算の状況の説明		予定していた、支援員を確保することが出来なかったため、当初より減額となった。				
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	小学校(2校) 8名(各校4名)	目 標	(2校8名)	(2校8名)	(2校8名)	(2校8名)	
		実 績	2校7名	2校8名	2校8名	2校6名	
	中学校(1校) 4名(各校4名)	目 標	(1校4名)	(1校4名)	(1校4名)	(1校4名)	
		実 績	1校4名	1校4名	1校4名	1校3名	
	達成状況説明	学習支援員配置について、当初目標の3学校に12人の配置に対し、3学校で9名の配置となっており、各学校1名不足となった。目標を達成できなかった要因として、離島という地理的不利性に加えて、昨今の人材不足が挙げられる。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
		目 標	()	正答率 30%未満 小学校 10%以下 中学校各教科30%以下	正答率 30%未満 小学校 10%以下 中学校各教科30%以下	正答率 30%未満 小学校 10%以下 中学校各教科30%以下	()
		実 績		○小学校 7科目中5科目で達成 ○中学校 6科目中5科目で達成	正答率30%未満の割合 ○小学校3年 国語:18.4% 算数: 0 % ○小学校4年 算数: 0% ○小学校5年 国語:14.8% 算数: 2.1% 理科: 4.2% ○小学校6年 算数: 0 % ○中学校1年 数学:34.9% ○中学校2年 国語: 2.3% 数学: 6.9% 理科:30.2% 社会: 6.9% 英語: 9.3%	正答率30%未満の割合 ○小学校3年 国語: 0 % 算数: 0 % ○小学校4年 算数:11.7% ○小学校5年 国語: 0 % 算数: 3.5% 理科:14.2% ○中学校6年 算数: 6.1% ○中学校1年 数学:43.2% ○中学校2年 国語: 0 % 数学:33.4% 理科:52.4% 社会:16.7% 英語:23.8%	
	【H30成果目標】 沖縄県学力到達度調査での県平均正答率との差 小学校 5ポイント以上 中学校 3ポイント以上		目 標				80%
	進捗状況説明	平成29年度に行われた県到達度調査において、村学力向上推進委員会の達成目標である正答率30%未満の児童生徒の割合を小学校で10%以下、中学校で30%以下にする」という数値目標を小3(国語0%、算数0%)、小5(国語0%、算数3.5%)、小6(算数6.1%)、中2(国語0%、社会16.7%、英語23.8%)で達成できたが、他の教科(小4算数、小5理科、中1算数、中2数学・理科)において達成できなかった。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・一部の教科で成果目標が未達成となった。 ・学習支援員の人員確保が不十分となった。	・成果目標が達成できなかった要因として小学校の場合、学力の低い子への補習等の学習支援を行っているが学習の定着が出来ていないことや、粘り強く問題を解くための活動が弱かったことが要因と考えられる。また、中学校においては、中間層の生徒を引き上げるための努力や、日常の授業の中できめ細かな指導がたりなかったと思われる。両課題に対して、学習支援員に対する指導力の向上研修などを実施して改善を図る必要がある。 ・学習支援員の確保に向けて県内大学及び専門学校等への求人活動を強化する。
今後の取り組み方針		
・学習支援員の指導力の向上や継続的な雇用を実現するために、指導主事を中心に学習指導法等の研修を実施することで、学習を支える力の育成を図る。 ・学習支援員の新規雇用に向け、県内大学及び専門学校へ求人活動を行うなどの人材確保に努める。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>16,143</td><td>16,143</td><td>12,914</td><td>3,229</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 16, 143千円 賃金 16,143千円 臨時職員賃金 16,143千円 （ 小学校学習支援員6人賃金 中学校学習支援員3人賃金 ）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	16,143	16,143	12,914	3,229	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
16,143	16,143	12,914	3,229	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、伊江村賃金職員雇用管理規則等に基づき、有資格者等を適正に選定、任用しており妥当なものとする。 ○目標数の支援員を確保することはできなかったが、予算規模において適正に処理することができた。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については清算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											

市町村名	伊江村						
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10-②	各種大会派遣費助成事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章－5－(2)－ア		
					教育機会の拡充		
担当部課名	伊江村教育委員会	事業実施 (予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(1)		
事業内容	本村の児童生徒のスポーツ、文化活動等において、地区大会や県大会等への派遣旅費について支援する。						
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度 (年度)						
実施方法	□ 直接実施 □ 委託 ■ 補助 □ 負担 □ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	4,283	4,800	4,550	3,700	3,700
		(b) 予算現額	3,859	6,288	3,917	3,671	4,094
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 424	1,488	▲ 633	▲ 29	394
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計 (b+d)	3,859	6,288	3,917	3,671	4,094
	B. 執行済額		3,859	3	3,917	3,671	4,094
	うち交付金充当額		2,800	3	3,133	2,936	3,275
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	予算の状況の説明		当初は、前年度を見込み予算計上としていたが、年度途中において、県大会、県外大会の派遣が多くなったことから、増額補正した。				
	活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度		
各種大会派遣費の助成		目 標	(派遣費の助成)	(派遣費の助成)	(派遣費の助成)	(派遣費の助成)	
		実 績	助成実施	助成実施	助成実施	助成実施	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明		児童・生徒の競技力の向上とともに、国頭地区代表や、県代表に選出される児童生徒が多く目標数より大幅な増加となった。 ・中学生 県外派遣 13名 県内派遣 86名 ・小学生 県外派遣 14名 県内派遣 19名					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	各種大会派遣費の助成率:100% (交付申請に対して100%助成する)	目 標	()	()	()	(助成率 100%)	()
		実 績				助成率 100%	
	【参考指標】 ・各種大会派遣人数:1,000人	目 標	()	(1,000人)	(1,000人)	(1,000人)	()
		実 績		2,404人	2,029人	1,962人	
	【H30成果目標】 対象児童の視野が広がったか(80%以上) を含め、保護者へのアンケートにより、本事業のあり方を検証する。	目 標					80%
	進捗状況説明	・派遣費の助成を申請した児童生徒に対して事業期間内に100%の助成を実施することが出来た。 ・派遣人数については、若干減少したが多くの児童生徒が本事業を活用し、文化・スポーツ活動において、村外の競技者との競争や交流の機会を増やすことが出来た。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・当該事業について、スポーツ少年団や小中学校に対して周知を図ってきた中で、申請は主にスポーツ活動での支援が多くなっており、文化活動においては、申請件数が少なく、周知が行き届いていない可能性がある。	・当該事業の更なる周知を図るほか、申請者からの問い合わせが多いことや、添付資料の不備等による申請の遅れを防ぐ等、事務の効率化を図る必要があることから、Q&Aの作成や年度当初に事業の説明会を開催するなどの対応が必要である。
今後の取り組み方針		
・申請者は、毎年変わるため事務手続きの誤りや漏れがないよう、Q&Aの周知や事業の説明会や書面による申請案内などを継続して行っていく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>7,768</td><td>4,094</td><td>3,275</td><td>819</td><td>3,674</td></tr></table> 伊江村 4,094千円 補助金 4,094千円 伊江村スポーツ少年団 1,702千円 ほか、受益者負担分（交付対象外経費） 1,691千円 伊江中学校 2,392千円 ほか、受益者負担分（交付対象外経費） 1,983千円 村外派遣に係る補助 船賃・車両航送料・宿泊・航空賃・交通費 村外派遣に係る補助 船賃・車両航送料・宿泊・航空賃・交通費					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,768	4,094	3,275	819	3,674
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,768	4,094	3,275	819	3,674										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金交付要綱に照らし合せ、補助対象者を適正に選定しており妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○助成対象者を適正に選定していることもあり、執行率は100%であるため、予算規模は適正であったと考えている。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金交付要綱に基づき受益者負担を行っており妥当であったと考えている。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○交付額の確定時において支出等に関する書類により確認しており、適正であった。											

市町村名	伊江村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	11-①	伊江村型就業意識向上支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-カ				
担当部課名	教育行政課	事業実施(予定)年度	平成28～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄県産業・雇用拡大県民運動の推進			
事業内容	中学を卒業と同時に親元を離れ、島から旅立つ子ども達の為に早い段階からジョブシャドウイングや職業人講話卒業生トークライブをとおして将来の夢や目標、自立に向けた自己イメージの習得やキャリア教育と就業意識向上を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,993	5,125				
		(b) 予算現額	3,392	5,064				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 601	▲ 61				
		(d) 繰越額	—	—				
		A. 計 (b+d)	3,392	5,064				
	B. 執行済額		3,392	5,064				
	うち交付金充当額		2,713	4,051				
	次年度繰越額		0	0				
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%				
予算の状況の説明		当初予算より減額となっているが、計画通りに事業を執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	企業訪問・体験開催(1回)	目 標	(訪問・体験開催)	(訪問・体験開催)				
		実 績	訪問・体験の実施	訪問・体験の実施				
	職業人講話開催(4回)	目 標	(講話の開催)	(講話の開催)				
		実 績	講話の開催実施	講話の開催実施				
	卒業生による進路講話開催(1回)	目 標	(進路講話開催)	(進路講話開催)				
		実 績	進路講話の開催実施	進路講話の開催実施				
	島のみりよく発信(1回)	目 標	()	(みりよく発信)				
		実 績		みりよく発信の実施				
達成状況説明	・小学生では事前学習から始まりジョブシャドウイング事後学習、発表会まで行い村内で見る事の出来ない職業を体感する事が出来た。 ・中学校では全校生徒を対象に村出身者のさまざまな職種の方を招き中学卒業から今の仕事につくまでの経過や心境を聞くことができた。 ・高校3年生を講師として高校生活に必要な事、これからの目標、一人暮らしの体験などを聞くことができた。 ・小学生(5・6年生)が、離島フェア2017の伊江村関連企業ブースで、観光や特産品の魅力を来場者に伝える販売体験を行った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
	企業訪問・体験(小学生)6年生95%	目 標	()	(95%)	()	()	()	
		実 績		100%				
	職業人講話(中学1・2年生)90%	目 標	()	(90%)	()	()	()	
		実 績		100%				
	卒業生による進路講話(中学3年生)90%	目 標	()	(90%)	()	()	()	
		実 績		100%				
	島のみりよく発見隊(中学生)50%	目 標	()	(50%)	()	()	()	
		実 績		0%				
	【H30成果目標】 就業意識が向上したか(80%以上)を含め、イベントに参加した児童生徒へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。		目 標					80%
進捗状況説明	・全児童を対象に事前・事後学習を行い、村外でのジョブシャドウイングを実施することにより村内で見る事の出来ない職業を体験する事ができた。 ・全中学生を対象に村内在住の方や村外で活躍する村内出身者を講師として、中学校を卒業後どのように現在の職業に就くまでの過程や、体験談をとおしてどのように目標を探していくか等、中学校生活や進路選択について講話を実施した。その後のアンケートでは、とても良かった・良かったと回答した割合が98%あり、仕事に対する考えを学ぶ事ができた。 ・高校3年生3名を講師として中学生を対象に高校生活に必要な事、一人暮らしの大変さ、今後の目標設定等の講話を実施し、15歳で親元を離れることの大変さや周りの協力の大切さなど、経験した先輩方から貴重な話を聞くことが出来き自分自身の将来をイメージするきっかけとなった。 ・しまのみりよく発見隊については、当初中学生を予定していたが、離島フェアが日程変更となり学校行事と重なったため、小学生5～6年生を対象として実施し、伊江村関連企業ブースで、観光や特産品の魅力を来場者に伝える販売体験と、その事前学習と事後学習を通して、村の魅力を再発見する取組ができた。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・小学生ジョブシャドウイングの受け入れ先企業について、午前だけの企業と昼食後に終える企業がある。 ・多様な職種を学ばせるため、中学生受入事業者の拡大を図る必要がある。 ・島のみりよく発見隊について、離島フェアの日程が主催者側の都合で、急遽変更になり、対象者を中学生から小学生へ変更を余儀なくされた。	・小学生ジョブシャドウウイング受け入れ先企業に受入時間帯の統一を働きかける。 ・中学校の村内事業者受け入れについて、受入候補事業者への働き掛けを行う。 ・主催者団体と連携し、各種イベントの日程変更の可能性等の事前把握に努める必要がある。
今後の取り組み方針		
・小学生ジョブシャドウイングの受入時間帯の統一の働き掛けを行い、日程調整作業の省力化を図る。 ・中学生受入事業者の拡大に向けて、候補となる事業者を開拓する。 ・イベント日程変更に対応するため、主催者団体との連携体制を強化する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>5,064</td><td>5,064</td><td>4,051</td><td>1,013</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 5,064千円 旅費 41千円 ジョブシャドウ等に係る旅費 役務費 5千円 ジョブシャドウ等に係る役務費 委託料 5,000千円 株式会社 ケイオーパートナーズ 5,000千円 伊江村就学意識向上支援事業委託 使用料及び賃借料 18千円 ジョブシャドウ等に係る 車両借り上げ料等					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,064	5,064	4,051	1,013	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,064	5,064	4,051	1,013	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託料についてはプロパーザルを行い業者を選定しており、妥当である。 ○予算規模は、全ての事業を執行しており、適正である。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊江村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	12-①	世界のイージマンチュ交流派遣事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－4－(1)－ア			
					国際ネットワークの形成と多様な交流の推進			
担当部課名	総務課	事業実施 (予定)年度	平成27～29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-7			
事業内容	中学生から青年の若い世代を、南米3ヶ国(ボリビア・アルゼンチン・ブラジル)へを派遣し、ホームステイを通して移民の歴史や現地の文化を学ぶとともに、各国で居住するイージマンチュとの交流を深め、イージマンチュとの絆やネットワークを強固にし、諸外国との架け橋となる人材を育成する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	7,000	4,200	6,803			
		(b) 予算現額	6,000	1,158	4,337			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,000	▲ 3,042	▲ 2,466			
		(d) 繰越額	—	—	—			
		A. 計 (b+d)	6,000	1,158	4,337			
	B. 執行済額		5,439	1,158	4,337			
	うち交付金充当額		4,251	926	3,470			
	次年度繰越額		0	0	0			
	執行率(%) (B/A)		90.7%	100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		派遣する人数については、計画と実績の人数が変動しその分減額が発生した。 また、派遣委託業務において入札残によって減となった。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	移民先である北米や南米等の諸外国への交流派遣を実施	目 標	(交流派遣を実施)	()	()	()		
		実 績	交流派遣を実施できた					
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
	達成状況説明	・中学生から青年などの若い世代を対象に派遣参加者の募集を行い、面接を通して派遣参加者を決定した。 ・夏休み期間中に、中学生と一般参加者の7名をブラジル、ボリビア、アルゼンチンの南米3カ国へ派遣した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (年度)
	・世界のイージマンチュとの交流会を行うことで絆を深めるとともに、諸外国に居住するイージマンチュとのネットワークを構築	目 標	()	(イージマンチュとのネットワー ク構築)	()	()	()	
		実 績		イージマンチュとのネット ワークを構築した				
	・国際交流を通して、現地にて学んだことを地域での集会や他の生徒への報告会等を実施	目 標	()	(報告会を実施)	()	()	()	
		実 績		報告会を実施した				
	進捗状況説明	南米3ヶ国を訪問し、現地のイージマンチュと交流、親睦を深めることができ、絆をより強固にすることができた。 ホームステイや交流を通し、異国の地の文化に触れながらもイージマンチュから伊江島・沖縄に対するアイデンティティーを感じることができ、本村と諸外国を繋ぐ役割に対する重要さを感じることができた。 派遣事業で得た経験や考え方など事業の成果を報告会にて発表した。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・当初計画8名の派遣を予定しており募集をかけたが、応募者が予定人数に届かず7名の派遣となった。	・今後は、村民に説明会を開き、事業実施の意義や必要性を十分に説明するとともに本事業の目的や内容を広く周知し、積極的な参加者の公募に努めたい。
今後の取り組み方針		
・今後については、防災行政無線や村広報誌を活用し、なるべく多くの村民へ呼びかけを行い、事前に本事業の説明会を開催する。また、その中で事業内容の意義や必要性の説明、過去の事業参加者からの講話等を通して、本事業について理解してもらい事業の充実化を図る。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>4,736</td><td>4,337</td><td>3,470</td><td>867</td><td>399</td></tr></table> 伊江村 4,337千円 需用費 285千円 （株）ちとせ印刷 285千円 世界のイージマンチュ交流派遣事業報告書の印刷製本費 手数料 78千円 伊江郵便局 78千円 ブラジル入国に伴う黄熱予防接種受診時手数料 委託料 3,974千円 （株）国際旅行社 3,974千円 世界のイージマンチュ交流派遣に伴う渡航費等委託料 （ほか、参加者負担分（交付対象外経費） 399千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,736	4,337	3,470	867	399
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,736	4,337	3,470	867	399										
資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託費については、指名競争入札を行い業者を選定しており、妥当である。需用費については、村の契約規則等の規定により業者を選定しており、妥当であると考える。 ○活動内容、成果目標は達成しており、予算規模は適正だったと考える。 ○受益者である各参加者は、委託料一人当たりの1割を負担しており妥当と考える。 ○費目・使途については、清算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断できる。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												